

子どもへ語りかけ（年代別）

小学校低学年の子へ

過去に褒められたことが少なかったり、適度な我慢とそのあとの達成感が少なかったり有能感が低かったりする子は、欲求や感情をコントロールできないことがあります。

そんな子には、これまでのかかわり方を見直して、「やればできるよ」「ちゃんなら大丈夫よ」「でもできないこともあるよね」「一緒にしてみようか」などの言葉をかけながら自身や責任感、自己受容感などを高めてあげましょう。

小学校高学年の子へ

一般的に、他者から自分がどのように見られているかに敏感になり、自分を修正し始める時期ですが、子供の中には、物事が自分の思い通りにならないと、ふてくされたり、衝動的に暴力的な行動に出たりする子がいます。このような場合は、子供が自分に自信がもっているか、大切にされている実感があるか、これまでの子供とのかかわり方について振り返ってみましょう。

この時期の子供は、「子ども扱い」されることを嫌がるので、「頑張ってるね」「ちゃんならできると思うよ」と声をかけるとともに、「何かあったら話してね」と言って、いつでも聞く姿勢があることを表してあげましょう。こういった態度をとることで、子供の安心感や向上心を育てることにつながり、徐々に我慢することをマスターしていきます。

中学生以上

この時期に入ると、母親に反抗したり、異なる意見を主張したりします。これは、母親とは異なる自分を認識しつつ、新たな自分を自分で受諾するために、今までの親子関係を壊し、また新たに築いていくためです。

こういうときは、あまり子供の世界に入り込もうとせず、子供が話したい時はいつでも聞く姿勢を表しましょう。子供のサインを感じた時は、逃げたりごまかしたりせず、本音で語り合ってあげるといいでしょう。「生意気な」とか「一人前の顔をして」などと言って、拒絶すると、子供の反抗は更にエスカレートしていきます。

こういった場合、一言で効く魔法の言葉はありませんが、日ごろから「どうしたの？」「大丈夫？」などと声をかけ、よりよいコミュニケーションづくりを心がけると良いでしょう。

（別冊 PHP より）